

(有) 静岡健康企画 ことぶき薬局 TEL055(977)6024 たまち薬局 TEL054(251)1678
ひまわり薬局 TEL053(463)4312 みかん薬局 TEL053(584)2230 いちご薬局 TEL055(946)6430

今こそ知りたい 子宮頸がんワクチン問題

今月は、この間話題になった「子宮頸がんワクチン」の副反応についてのお話です。

子宮頸がんワクチンとは、子宮頸がんの発症を予防するワクチンです。日本では2009年に「サーバリックス」、2011年に「ガーダシル」の2種が発売されました。発売当初から、ワクチンの公費助成を求める要望の声が全国に広がり、住民の間で大規模な署名活動が展開されました。更にWHO（世界保健機関）や産婦人科の分野で力をもった先生達も大々的にワクチンの接種の必要性を訴え、メディアに様々な働きかけがされました。その後は異例ともいえるスピードで自治体の公費補助、定期接種化がされました。サーバリックス発売から約4年後、公的支援による定期接種化が始まりました。静岡民医連での病院や診療所でも多数の患者様に接種がされました。公費助成の対象となる年齢は中1～高3の女性であったため大部分の接種者は当時10代の女性でした。

ところがその後、ワクチンによる副反応（※）が次々に報告されました。報告例数はインフルエンザワクチンの40倍の数と多く、歩行器障害や脳の障害など、日常生活に大きな支障の重篤な副反応も多くありました。被害者の大部分が思春期の女性であったということもあり、この問題はマスコミで大きく取り上げられました。これらの報告をうけ、厚労省は2013年6月「積極的な推奨を一時的に差し控える」という声明を出しました。

※副反応……ワクチン接種に伴うのぞましくない作用のことです。薬によるのぞましくない作用のことは「副作用」といいますが、ワクチンの場合は「副反応」という言葉を使います。以後、「副反応」という言葉で説明をしていきます。

☆子宮頸がんワクチンって何故効くの？

子宮頸がんの原因として、ヒトパピローマウイルス（以下HPV）の感染があります。HPV自体はありふれたウイルスで、性交渉をもったひとなら一度は感染するといわれています。90%以上は体外に自然排出されますが、ごく一部が長期に感染し、がんの原因となります。このHPV感染を防ぐことでがんの発症、尖圭コンジローマという病気を予防する効果があるとされています。ただし今感染したHPVを排除する効果はありません。

☆どんな副反応がおきたの？どのくらい起きているの？

副反応の症状は注射部位に限らない全身のさまざまな場所の痛み、疲労感、発熱、神経症状、呼吸症状、歩行障害、記憶障害などなど、非常に多岐にわたっています。これらが一度に起こることも多く、なかには20以上の医療機関を受診したという人もいます。焼津市や川崎市、鎌倉市など一部の自治体では独自に副反応についてのアンケート調査が行われました。が、回収率が低いという問題もあり、副反応の全容について解明されるには至っていません。

☆ワクチンのせいでこのような症状が起きたのでしょうか？

一部のワクチンにはアジュバントというワクチンの効果を持続させるための増強剤が添加されています。このアジュバントが過剰に人体に反応したり、神経などに影響を与えたりしたため副反応がでたのでは……という説がありますが、残念ながら特定はされておりません。

厚労省ではこれらの症状を「心身の症状」や「（膠原病や自己免疫疾患など）既存の病気で説明できる症状」で説明できるものが多く、接種後時間がたってからの症状や慢性的に続く症状についてはワクチンとは直接関係ないという見解を示しています。2014年3月末時点で、厚労省に報告された症例のうち、厚労省がワクチンとの因果関係があると認めているのは2500例中176例、わずかに7%程度に過ぎません。



☆そもそも、このワクチンって効果があるの？

承認販売はされていますが、残念ながら、専門医の間でも否定肯定含め様々な意見があり、最終的な結論は現時点では誰にも出すことができないと言わざるをえません。現在接種したひとが、実際に子宮頸がんを発症する年齢になり、実態が明らかとなるまではあと数十年の年月が必要となると思われます……。

☆海外の状況について

報道が始まった当初、これらは日本人に特有の症状であるという報道もありました。ですが、近年世界中で報告が数多くあがり、訴訟も起こっています。インドでは臨床試験で6名が死亡し、全州にワクチンの接種の中止が呼びかけられました。デンマークでは日本の3倍の頻度で副反応と疑われる現象が起きています。これらの重篤な副反応の報告のなかには、日本でのワクチン発売前に起こったものもあります。ですが、これらの情報提供は果たしてしっかりとされたのでしょうか……！？

☆知っていますか？医薬品副作用救済制度

では、これらの被害をうけた患者様はなにか保証されることはないのでしょうか。

「医薬品副作用被害救済制度」とは、医薬品を適正に使用したにもかかわらず、その副作用により入院治療が必要になるほど重篤な健康被害が生じた場合に、医療費や年金などが給付される制度のことです。(外来通院の場合でも入院が必要なほど重篤である、と判断された場合は支給されます。)

もちろん子宮頸がんワクチンにもこの制度は適用されます。しかし、昨年11月末時点で、申請したひとはわずか141名に過ぎません。

しかも子宮頸がんワクチンについては、請求から5年前までの治療費しか支払われないという条件がついています。公費助成による接種が始まったのは2010年11月なので、もしかしたら医療費を請求できないケースが出てきてしまうかもしれません……。

もしワクチンによる重篤な被害が出ていたら、ぜひ医療機関や薬局にご相談ください。

「お薬を正しく
使えば副作用は
出ないはず…？」

いいえ。正しく使っても、まれに
重い健康被害を起こすことがあります。

薬は正しく使っても、副作用によって、まれに入院治療が必要になるほどの
重篤な健康被害を引き起こすことがあります。
その場合に、医療費や年金などの給付を行う制度が「医薬品副作用被害救済制度」。
いざという時のために、あなたもぜひ知っておいてください。

お薬を使うすべての方に知ってほしい制度です。

医薬品副作用被害救済制度

子宮頸がんワクチンをめぐる数々の問題については、あらゆる見解が錯綜し、まだまだ未知のことが多いのも事実です。ワクチンそのものが数十年たたないと効果が実証できないという性質のものであり、まだ何も断言できる段階ではありません。ですが、ほんとうに厚労省の言うとおり、副反応の大多数が「心身の反応」「既存の病気で説明できるもの」なのでしょうか？副反応に苦しむ患者様の大多数を占めるのは思春期を迎える女の子たちであり、この症状のために登校や進学などに支障がでるケースもでてきています。

重篤な副反応こそ報告されていないものの、私どもの医療機関でも多くの患者様がこのワクチンの接種を受けています。私どもとしても、この問題を決して無視してはならないものと思っております。そして、副反応の全容はきちんと解明され公開されなければならないと思っております。

もし、ワクチン接種により、何かしらの健康被害で自分が、あるいは周りの人が苦しんでいるという場合、ワクチンを打つかどうか迷っているときはぜひご相談ください。親身になってお応えいたします。